

コスモス健康通信

**胃ガンは日本人のガン死亡率の第2位です。
～ 胃炎・胃潰瘍を放っておくと危険！～**

こんな症状ありませんか？

胃の病気の代表的な症状には、空腹時に胃が痛む(特にみぞおちのあたり)があり、他にも、胸やけ・すっぱいゲップ・吐き気・嘔吐・食欲不振・貧血などの症状も見られることがあります。また、タール状の便が出る・黒い血液をはくときは緊急事態です。こういう症状が続くときは、胃ガンや胃潰瘍などの可能性がありますので、早めに検査を受けましょう。



原因には何がありますか？

- A.** 主な原因にストレス、痛み止めなどの薬剤、喫煙、遺伝などがあげられます。これら原因や食べ物など胃を攻撃する「攻撃因子」と、胃を守る粘液などの「防御因子」の二つの力のバランスが崩れると、胃の粘膜が傷害されて潰瘍になるといわれています。また、最近では胃潰瘍の再発にはヘリコバクター・ピロリ菌がかかわっている事もわかってきました。

症状がある場合は？

- A.** まず検査を行います。胃透視(バリウム)検査と、胃内視鏡(胃カメラ)検査がありますが、胃内視鏡検査の方が直接病変をとらえ、組織の検査も同時に行える点で優れています。また日本人に多い胃ガンがこの内視鏡検査で見つかることも多くあります。

どんな治療法がありますか？

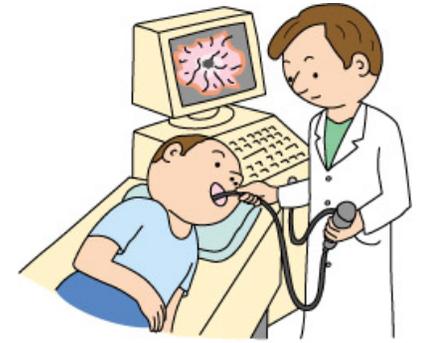
- A.** 今は胃酸を抑えるすぐれた薬が登場しているので、まず内科的治療(投薬)を行うのが一般的です。またピロリ菌がいる時はその除菌治療を行う事もあります。それだけではどうしても出血が止まらない場合や、再発を繰り返す場合は外科的治療(手術)を行いますが、その割合は減少しています。

最近の内視鏡検査は、麻酔薬や胃内視鏡(胃カメラ)の細径化によって、以前よりも苦痛が軽減されてきています。

胃内視鏡検査（胃カメラ）におけるQ&A

Q. 胃内視鏡検査（胃カメラ）の目的は？

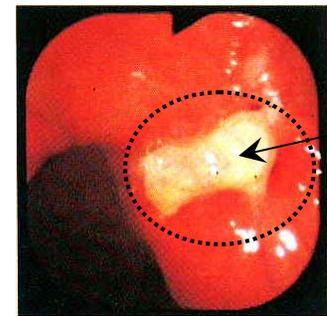
- A.** 基本的には、病気の診断と治療方針決定のために行います。
病変があった場合には、良性、悪性の診断を行います。
胃が痛いなどの症状だけでは、良性、悪性の鑑別は困難です。



Q. 胃・食道ガンが発見されるきっかけは？

- A.** ガン検診(ドックも含む)を受けた場合と胃の症状があり、
胃内視鏡検査を行った場合(結構多い)が、ほとんどを占めます。
また、無症状でも40歳以上の方は、胃ガン検診として行うことが
勧められています。

胃潰瘍の症例



白く見える
部分が
潰瘍です。

Q. 胃薬を飲むときのリスクは？

- A.** 現在の胃薬は、市販薬でも即効性の高いものが多く、潰瘍やガンでも数日薬を飲めば、症状が改善
することが多いです。

このため、胃内視鏡検査(胃カメラ)を受けずに、薬だけを飲んで症状改善したため、ガンの発見が
遅れることがしばしば見受けられます。

また、良性の潰瘍の場合でも、潰瘍の状態(大きさ・深さ・出血の危険度)などによって、薬を飲む
期間を決めます。

先に述べたように、現在の胃薬は良く効くため、少し飲めば症状が改善することが多いようですが、
実際に潰瘍が治るには一定期間の内服が必要です。

短期間しか飲まなかった場合は、潰瘍が閉じる前に薬をやめていることになるので、再び潰瘍が
広がり、最悪の場合出血、穿孔(穴があくこと)したりすることがあります。

胃が痛いなどの症状がある場合、早めに受診して検査を受けましょう。